

講演概要

『不確実性の時代』の朝鮮半島と日本の外交・安全保障」研究会
 年度末公開シンポジウム（2019年3月11日（月）13:30～15:30、於東海大学校友会館）



<概要>

○日時：2019年3月11日（月）13:30～15:30

○会場：東海大学校友会館

○プログラム（敬称略）：

開会辞 中山 泰則（日本国際問題研究所所長代行）

セッション（司会：研究会主査）

- ・研究会主査による研究会の主題説明と問題提起
小此木 政夫（慶應義塾大学名誉教授）
- ・報告①「朝鮮半島の安全保障環境と最近の動向」
倉田 秀也（防衛大学校グローバルセキュリティ・センター長、教授／日本国際問題研究所客員研究員）
- ・報告②「第2回米朝首脳会談の総括と米朝関係の展望」
伊豆見 元（東京国際大学教授）
- ・報告③「日韓関係の現状と管理方案」
西野 純也（慶應義塾大学教授）
- ・質疑応答

<内容>

日本国際問題研究所では研究プロジェクト「安全保障政策のボトムアップレビュー」を構成する『不確実性の時代』の朝鮮半島と日本の外交・安全保障」研究会の平成30年度（2018年度）の活動の一環として、研究会の成果の一部を公開し、いっそうブラッシュ・アップするため公開シンポジウムを実施しました。

シンポジウムでは、第2回米朝首脳会談（2019年2月、ハノイ）の結果や日韓関係の現状についての発表が行われました。たとえば米朝首脳会談については、単なる決裂と見るのではなく、交渉の流れを「非核化」「核不拡散」の方向に「引き戻した」点に注目する必要があるとの指摘がありました。また、

北朝鮮側が逆に「非核化」のみを交渉することに抵抗した結果、会談は準備不足のまま、不確実なトップダウン（直談判）形式にゆだねられることになったとの分析も示されました。そして日韓関係については、対立状況を管理（マネージ）していくために、まず両国が状況認識を一致させること、その上で地域情勢もふまえた新たな両国関係の枠組みを作ることが重要との意見が出されました。

当日は約 130 名の聴衆が参席し、質疑応答パートでも米朝交渉、日韓関係、朝鮮半島情勢に対する日本の役割などを中心に活発な議論が展開されました。

（以上）